

5. 帝京大学メンズヘルス外来における漢方の使用状況

帝京大学医学部附属病院 泌尿器科学¹⁾

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学²⁾

○木村 将貴¹⁾、野口 尊弘¹⁾、芦澤 健¹⁾、堀内 明¹⁾
古謝 将之¹⁾、平野 央¹⁾、子安 洋輝¹⁾、寺井 一隆¹⁾
斎藤 恵介¹⁾、井手 久満¹⁾、武藤 智¹⁾、辻村 晃²⁾
山口 雷蔵¹⁾、堀江 重郎²⁾

【目的】 LOH 症候群（男性更年期障害）に対する治療法としてはテストステロン補充療法が第一選択となる。しかし実臨床では易疲労感、性欲低下、イライラ、ほてりなどの男性更年期症状があっても血中テストステロンは正常範囲内の症例も散見される。このような症例には漢方治療が一つの選択肢になると思われる。今回、帝京大学医学部附属病院メンズヘルス外来で処方された漢方治療についてチャートレビューを行い検討した。

【方法】 2014年4月から2015年12月までに帝京大学医学部附属病院泌尿器科メンズヘルス外来にて男性更年期精査を希望して受診された59例を検討した。評価項目として一般的な問診のほか、治療前のAging male's symptoms (AMS) スコア、テストステロン (T)、luteinizing hormone (LH)、follicle-stimulating hormone (FSH) 値を測定した。自覚症状に関しては、面接法により主観的自覚症状改善の有無を確認した。

【結果】 平均年齢は52.4 ± 9.5歳であった。治療前総テストステロン値は506 ± 214ng/dL, LH値は5.2 ± 3.6 mIU/mLであった。主訴は身体的要因が37例 (62.7%)、心理的要因が13例 (22.0%)、性機能要因が9例 (12.3%)であった。精神疾患合併率は合併ありが17例 (32.7%)、なしが35例 (67.3%)であった。治療方法別で検討したところ、治療なし15例 (25.4%)、テストステロン補充療法25例 (42.4%)、漢方治療19例 (32.2%)であった。自覚症状の改善に関しては、改善ありが24例 (54.6%)、改善なしが20例 (45.4%)であった。漢方治療とテストステロン補充療法をした群での治療前テストステロン値は漢方療法群が有意に高値であった (421 vs.603, P = 0.023)。自覚症状の改善率はテストステロン補充療法群が優れていたが有意ではなかった (64 vs.42 %, P=0.127)。使用された漢方治療は多かった順に (重複あり)、補中益気湯が12例、加味逍遙散が5例、柴胡加竜骨牡蛎湯が3例、桂枝茯苓丸が2例、八味地黄丸が2例、半夏瀉心湯と四君子湯が1例ずつであった。

【考察】 帝京大学メンズヘルス外来における治療においてその漢方の占める位置と使用状況、効果について検討した。LOH 症候群を扱うメンズヘルス外来ではテストステロン値が正常でも様々な症状を呈する症例を経験する。その場合も適切な漢方治療で一定の効果が得られると考えられた。